

## 今回の試験内容について

(5分前着席、5分前問題配布が実現すれば、試験前に読めるかな。読むと少し得をします、たぶん・笑)

### 大問1 [20点]

授業の骨格になる「授業の目標」(および「授業の前提」)について確認する問題ですが、ほぼ中間試験までの範囲のもので、出題もほぼ同じです。

空所補充(空欄穴埋め)問題です。用語の選択肢はありませんが、解答のうちのいくつか(全部じゃないです・汗)は、前回同様に、この試験問題全体の中にも書かれていますので、それも利用してください。前回とほぼ同様ですので、配点は下げてありますが、2割を当てています。

### 大問2 [30点]

問1は、大問1と同様に、授業の骨格になる「授業の目標」(および「授業の前提」)についての確認問題です。範囲は中間試験以降のもので、

「授業の目標」が大事なんだと、授業中にもお伝えしていますし、これを理解するために、授業中に活動してもらっていますので、解答が平易な割に配点は合計すると低くはありません。授業に真剣に、そして周りの人たちと協力して、一緒に取り組んでいけば、かなり定着する(記憶にとどまる)と期待しています。

問2は、細胞分化のしくみを説明するものですが、これも「授業の目標」で示してきましたので、今回は空欄補充(穴埋め)問題ではなく、記述問題としました。第一学期を通して、授業の中で他の人に説明することを求めてきましたので、ここでは解答用紙に書き出してください。

ここまでで合計50点ですので、普通の授業で丁寧に正確に知識を理解し、他者に説明することで、知識を定着させていければ、確実に得点できると思います。

### 大問3 [15点]

問1と問2は、「mRNAの塩基配列を読む」問題です。インスリンのmRNAの読み取り作業を丁寧にした人には、同じ作業で答えを導けますので、安心して、落ち着いて取り組んでください。1つずれるとアウトですからね(汗)。

問3は、どのような塩基配列のDNAから、このmRNAの塩基配列ができたか、ということで、転写の原理を理解していれば、それを逆にたどって考えるということです。ちょっと応用的な側面はありますが、授業で理解した原理原則を活かしてください。

あまりこの部分だけを深掘りしてもバランスに欠けるので、この程度にして、配点はあまり高くないようにしてあります。

### 大問4 [20点]

問1は、DNAの複製と細胞分裂に関する出題です。授業では、細胞分裂で出現して移動する染色体の図で、複製したDNAがどのようになっているかを説明してもらっていますので、図を見ながら、説明文の空所補充問題という形式で、解答してもらおうようになっています。

問2は、少し応用した問題です。DNAと染色体の関係を理解していれば、答えを導けます。

問3は、目のつけどころを変えて、身についた知識を活用できるかどうかを期待しています。

### 大問5 [15点]

問1と問2も、転写と複製では、何がどうなっていったのかを理解していれば、正解の7割は解答できると思いますが、残りは、先の大問4の問3と同様の視点で考えていくことが必要になると思います。

問3と問4は、この視点での問いはなかったと思いますので、気付けるかどうかにかかっているでしょうか。

問5は、生物の系統性(進化)について、ここまでの授業で学んだことから、つなげられるかどうか、やはりその視点に気付けるかどうか、かと思っています。

知識としては、授業で扱ったことに過ぎないのですが、違うところ(単元)で扱った授業の内容をつなげられるかどうか問われています。今後は、試験範囲がますます広がりますので、このようなつながりを求めることが増えていきます。この大問は、これからの試験(第2学期中間試験、さらには学年末試験)への第一歩でもあると考えます。

## 基本的な定期考査に対する考え方（前回同様ですが…）

これまでの定期考査の価値付けの影響を、多くの人は受けていますので、何点とれるか、というように得点を気にする人が多いと思います。しかし、第1学期・第2学期の中間考査、期末考査の意義は、ここまでの取り組みで、学習の目標が達成できているかを図るものです。したがって、合計点で何点取れたか、ではなく、個々の問題が解けたかどうか＝個々の問題を解くために必要な学習内容を身につけているかどうか、それを判断するためのものです。最初にこのことをしっかりと確認しておいてください。

一方で、試験では得点をつけ、それを学期ごとの評価に組み入れるという学校のルールがありますので、それを勘案して、一応、100点満点の問題として作成はしてあります。しかし、これはあくまでも合計点を算出する必要があるという、こちらの事情でやっていることです。

学習の当事者である皆さんにとって大事なことは、合計点が何点か、ではなく、何ができて、何ができないか、という判断であることを、大事にしてください。ひたらくいえば、合計点議論になっちゃうと、何ができていたかどうか、曖昧になってしまうことが多いということです。

どうしても点数が気になる人は、100点だったかどうか、だけ考えたほうが良いかもしれません。100点ということは、今回求められたことには全部答えられた、ということですし、100点でないということは、どこかに不十分なところがあったということですからね。86点でも23点でも、できないことがある、ということに違いはないのです（できないことの分量には違いがありますから、なぜそうなったのか、ということ振り返る分量と、挽回の努力の分量に違いは出ますけどね・汗）

ましてや、平均点より上かどうか、なんてことは、全く無意味です。（特にこの試験を受けているクラスとしての平均点と比較する意味は、ものすごくないですよ、平均点の基本的な考え方を作り出した統計学的にみてもね）

テストの点数に一喜一憂するのではなく、自分の学習の状況がどうだったか、ということを中心に振り返ってください。特に、

## 授業での取り組みがどうだったか

です。予習・復習も、物事を学ぶ上では、大事な要素のひとつではあります。しかし、予習というのは、予め学ぶことです。何に向けての予めか、といえば授業です。復習も同じですね。授業を受けての繰り返しの学びです。

生物基礎の授業では、学ぶべきことを、皆さんが主体となって、全力で取り組む、それも周囲の人と協働して、互いに高めあって学び合う、そういう場を提供しています。その場を有効に利用して「授業の目標」達成を目指していれば、成果は必ず出てきます。

## 授業中にどれくらい全力で取り組めたか

このことを試験を通して振り返ってみてください。

## その他（前回同様ですが…）

問題用紙の表紙も含めた問題用紙のあちこちに、答えとなる用語や表現は散らばっている（製作者として散らばせている、当然、全てではないが…）。つまり、用語を丸暗記していなくても、この問題用紙に書かれている用語が「答えだ！」と気づけば、難なく解答できます。”本当に理解している！”状態であれば、それが正解だと気づける、ということですね。

授業（板書）の形、教科書の表現、それを丸暗記し、授業（板書）の形、教科書の表現通りになっている問題に答える。内容を理解していなくても、形・表現が同じだということを根拠にして、丸暗記したものを当てはめていく。

もし、そういう勉強の仕方、今まで成績（というか点数）をとってきた人は、そろそろ次のステップに進んでください。覚えることというか、身につけることは大事ですが、それは活用できる、ということがあったこと。単なる丸暗記では使えませんし、丸暗記で身につく能力は何なのだろうか…と思っています。だからそういう出題は（「授業の目標」「授業の前提」の問い以外では）しません。

今、求められているのは、基礎基本となる知識を理解して身につけるだけでなく、それを日常生活や社会の課題の解決などに、「活用できる」力です。集団での学習を大きな目的にしている授業ですが、個人の能力を伸ばすという点では、そこを狙っていきたいと思っています。

今回は、これまでの学習で身につけた知識を、別の单元でも使う、ということを狙った出題を、何問か、後半の方でしました。今回は、その1回目ですので、うまく対応できないかもしれませんが、試験範囲が広がっていく中で、徐々に対応できるようにしていって下さい。

最初からそれができるなら苦労はないですから。…ということで、これから授業で引き続き、そういうことを身につける人を応援していきますので、授業を中心に時間と労力をかけて、チャレンジして欲しいと思っています。

わからないことがあれば、いつでもご相談ください。